令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　［第３学年］

中３　練馬区立豊玉第二中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・学習内容に対して興味関心をもって主体的に取り組む生徒が多い。 ・授業時に理解できた内容が定着せず、試験では得点につながらない生徒が多い。 ・長文読解に慣れるため、演習が必要である。	・試験前の家庭学習に取り組みやすいよう、学習内容を項目立てて示せるようにする。 ・副教材を活用して、長文読解の演習を行う。 ・２００字作文の演習を行う。 ・漢字の読み・書きの課題に取り組ませる。
社会	・関心意欲が高まり、基礎基本が定着してきた生徒が増えてきた一方で、伸び悩む生徒もいる。 ・社会の仕組みや課題について主体的にとらえ、解決していく姿勢を伸ばす。	・ディベート、シミュレーションなどの活動的な授業を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める。 ・現代社会で関心のあることについて学習したことを生かし、自ら資料を探し、調べて論文にまとめる。
数学	・習熟度別での授業を行っているが、学力差が大きくなってきている。 ・基本的な知識や基礎計算でミスすることが多い。確めなどの方法も、触れていく必要がある。	・基礎の定着を図る。日本語の苦手な生徒に対しては理解度を確認しながら授業を進めていく。 ・計算途中の確認や、出てきた解答がおよその値となっているかなど、きちんとチェックできるようなスキルも身に付けさせる。
理科	・知識・理解については比較的定着している生徒が多い一方で、思考・判断・表現に課題が見られる。特に、既習事項を関連付けて考えたり、知識を活用して応用的な課題に取り組んだりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。	・実験・観察や日常生活との関連を意識した課題を取り入れ、既習事項を活用して考える場面を意図的に設定する。また、グループで考えを伝え合う活動や、自分の考えを説明・記述する活動を継続的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
音楽	・鑑賞や創作、器楽の活動に、積極的に取り組んでいる。 ・歌唱に恥ずかしさを感じる生徒もいる。 ・ウクレレなどの器楽や歌唱に難しさを感じる生徒がいる。 ・音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深め、言葉で表現する能力を高めていく必要がある。	・個人で練習できる教材を配布し、声掛けを行っていく。生徒同士で教え合う時間を作る。 ・歌唱に偏らないよう、様々な活動やジャンルを取り入れていく。 ・音楽用語などについては、プリント等を使用して少しずつ理解させる。また、個別対応が必要な生徒には丁寧に指導していく。 ・よい例をフィードバックし、表現活動の幅を広げる。
美術	・題材に関心を持って、意欲的に取り組むことができている。 ・自己の将来に、美術で学んだことが生きることに実感を持ちにくい生徒がいる。	・授業で学んだ知識や経験と、社会とのつながりを意識できる授業の展開を工夫する。 ・できる限り平易でありながら、深い学びにつながるよう、指導や資料に工夫をしていく。
保健体育	・保健体育で学んだことを実生活でも取り入れ実践できる生徒の育成が課題である。 ・競技や学び合いの中で自他を認め合うことを大切に取り組めるよう社会性を広げたい。	・体力テストの結果を受け自身の課題にあった運動やトレーニングを考えるサイクルの設定を授業の中で設ける。また、保健で取り扱う生活習慣を日常に取り入れられているかアンケートなどを行う。 ・自他の良い部分に気づけるためにも知識や本時のめあての明文化を図る。また、ペアワークやグループワーク

		など学び合いの場を設けることで機会を増やす。
技術家庭	・箸の製作は実用性もあり製作意欲がある。作業面でのアドバイスをすることで完成度を高める。 ・生物育成（栽培学習）は、家庭栽培にしていることもあり、栽培方法、栽培トラブルの対応に支援が必要である。 ・情報の技術（タブレット学習）のプログラム学習の取り組みに個人差がみられるのでわかりやすく説明するが必要がある。（技術） ・少子化や地域交流の減少などで幼児と触れ合う経験が少ない生徒が多い。 ・作品製作は全員着実に進んでおり、全体的に意欲も高い。（家庭）	・製作をわかりやすく進めるために市販の箸を参考にして、荒削りから仕上げまでの作業に集中させて箸を完成させる。 ・栽培をする場所が家庭なので、授業で栽培状況を聞きながら野菜が育つように適時対応をする。 ・課題内容にあわせた学習資料の準備と ICT の活用をする。（技術） ・幼児の生活や発達に関して視覚的な資料を多く準備し、さらに自らの成長を振り返る機会を設け、自らの成長と関連付けながら知識の定着を図る。 ・作品製作に関しては、ICT を活用しながら指導していく。（家庭）
外国語	・自主的に学習に取り組むようになり、基礎、基本の文法を定着させる生徒が増えてきたが、文章量の多い長文読解が苦手な生徒が多い。 ・「生徒同士の対話」では、基礎的な表現を用いて自分の伝えたいことを相手に伝えることができるようになってきているが、文の正確性や発展的な表現、内容の幅に大きな個人差がある。	・長文理解に必要な接続詞の使い方を理解させるために、リーディングやスピーキング活動での指導を入念に行うことで定着を図る。長文読解の速度を上げるために、英文をそのまま理解させるように、比較的簡単な英文から練習を繰り返し行っていく。 ・ペアでの Q&A などの自分のことを英語で表現する活動を充実させ、スピーキングの力を育む。また、学力向上支援講師(T2)との協働での個別指導により、ペア活動・グループ活動を支援し、生徒の発話する文の正確性を高め表現の幅を広げられるようにする。